



スタートした 林業と向き合う日々

仕事は、植林予定地で苗木を植える前に雑木や草などを整理する「地ごしらえ」をはじめ、苗木を一本一本手で植えていく「植え付け」、苗木の成長を妨げる雑草を刈り取る「下刈り」のほか、チェーンソーでの「伐採作業」が中心です。斜面を移動する時は安全なところを見極めて足を踏み出すよう注意し、ペアで行う地ごしらえでは、林地に散らばる大きい枝や丈の高い切り株をチェーンソーで切る時に相手のいる方に枝が飛ばないように安全第一を心掛ける毎日。働き始めた当初は、初めての作業で体力的に大変な部分はあるものの、3〜4カ月経った頃から慣れてきたそうです。

「最初は曲がっていた植え付けも、立てた棒を目印にだんだんまっすぐ植えられるようになりました。斜面もうまく歩けるようになって体力が付いたなと感じました。作業前後でまったく違う景色が広がっているのを見ると達成感を味わえますし、自分の植えた苗から芽が出て根付いていると思うと嬉しいですね」と、当手を振り返る土田さん。日々、林業と向き合う中で、スキルを磨き、体力的にも精神的にも成長していききました。

広がる林業女子の輪

北村林業(株)には5名の女性社員がいます。これは林業界ではかなり先進的。社員の労働環境などを整え、社員に趣味を大事にして欲しいと話すのは社長の北村昌俊さん。

「イマドキの若者が大切にしている仕事観や働き方を学び、機械化も進めていきました。最近は伐木から枝払い、玉切り(丸太に切ること)などを自動で、しかもわずかに分で完了できる海外の高性能林業機械(ハイランダー・ハーベスタ)も導入。おかげでかなり効率的です。一方、女性社員も増えてきたので、トイレを備えた軽トラも用意するなど、『林業女子』への配慮にも力を入れているんです」と話します。



社長の北村昌俊さん



技術を磨いて さらに幅広い仕事を

土田さんは入社から4年目を迎え、今ではグラップルという重機での作業もこなしています。後輩女子もできて、自分の経験を活かしたアドバイスや、仕事以外でもみんなが集まってご飯を食べたりと、まさに頼れる先輩です。ですが「まだまだ4年目で未熟者」と土田さん。「学ぶことがたくさんあり、知識や技術を習得してもっと色んなことにチャレンジしたいですね。今はグラップルの技術をもっと磨いて、先輩たちのようにできる作業をもっと広げていきたいです」と力強く話してくれました。

今では社長と一緒に就職イベントや会社説明会などにも参加して、会社のことや林業のことを伝える一翼も担っています。

「女性だからやっぱり日焼けは気になるし、虫の多い夏場の作業にも悩まされますが、ばっちり対策して毎日仕事に取り組んでいます。朝は早くても夕方は早めに終わる仕事なので、時間を有効利用できるのもいいところです。今はボルダリングにはまっています」と土田さん。

大好きな自然の中で活き活きと働くその瞳はキラキラと輝いていました。



重機の整備も大事な仕事の一つです

北村林業株式会社

住 所：北海道十勝郡浦幌町字帯富 97 番地 3

TEL：015-576-2332

URL：http://kitamura-ringyou.com/

とある

土田さんの



1日のスケジュール

22:00

就寝

17:00

退勤

16:00

会社へ戻る

12:00

現場作業開始！

11:00

お昼休憩

7:30

現場作業開始！

7:15

現場での打ち合わせ

6:20

バスで現場に移動

6:00

出勤・朝礼

4:50

起床！

finished!

退勤後は趣味の時間も！



現場によってスケジュールは変わることもあります



休憩中は談笑したりして、リラックス♪



今日もグラップルで頑張るぞ！

Start!

就業前にはラジオ体操！

INTERVIEW

〈雨竜町〉有限会社スリースターズ興業 塚田 翔太 さん

2

未経験からスタート。
林業の世界に飛び込んだ19歳



札幌と旭川の間に広がる空知という地域は、林業の盛んな地域でもありません。北海道深川市の高校を卒業し、雨竜町に本拠地を置く林業の会社(有)スリースターズ興業に就職した塚田翔太さんに、若者から見た会社や林業の魅力を聞きました。

見学会をきっかけに林業へ

働き始めてまだ2カ月ほどの塚田さんを訪ねると、何本も倒した木が整然と並び森のふもとの土場(どば)と呼ばれる所に、チェーンソーを使って枝を払っている彼の姿がありました。もうすっかり不安もなく作業をしているように見える塚田さんですが、特に高校時代には林業を志していたわけではないと言います。

「この会社で働きたいと思ったきっかけは、会社の見学会でした。僕はもともと高校を卒業したらすぐ働いて、親に迷惑をかけないように自立したいと思っていました。それで就職活動をしているときにインターネットで林業の事を知り、林業の会社を探しました。そしてこの会社に出会って採用してもらいました」

体を動かす仕事が良い

しかし、普通の事務職や営業職ではなく(有)スリースターズ興業は林業の会社です。山で木を植えて育てて、育った木を出荷し、再び森林を育てることを生業としている会社で、未経験で働くことに不安はなかったのでしょうか。

「僕は高校生の頃からずっとバドミントンをしていました。なので体を動かすことが好きで、事務職のように机の前でじっとしている仕事よりは体を動かすことができる仕事の方が良いなって思ったんです。家族も特に驚かず、逆に『すごいね!』と背中を押してくれました」

研修でスキルアップ

働き始めるまで林業のことはほとんど知らなかったと言う塚田さん。働き始めてからも戸惑うことはあまりなかったのだとか。

「就職してすぐに『緑の雇用』という林野庁が行っている事業の研修会があったんです。林業で働き始めた人を対象とした研修で、森を歩いて現場について教えてもらったり、そこでチェーンソーの使い方も教えてもらいました」

「緑の雇用」新規就業者育成推進事業では林業に必要な知識・技術・技能の習得のための研修を行い、林業で働く人のキャリアアップをサポートしています。(※)

塚田さんの参加した研修は農業や土木業から転職した方が多かったそうですが、塚田さんと同じく新卒で林業に飛び込んだ若者が何人もいたそうです。

「最初はチェーンソーなどを使うのは怖いと思っていましたが、研修や会社の先輩にも『ゆっくりでも安全に気を付けるのが一番大事だ』と言われていて、今はあまり不安に思っていないです。自分がしっかりしていれば事故は防げると教わっているのです」

(※制度の対象となる会社に勤務していることが必要です)



枝払い作業中



会社から支給されるチェーンソー。
安全のためにしっかり目立て(整備)します。

先輩たちのあたたかいサポート

職人の現場は「縦社会」というイメージがあります。…会社の雰囲気はどうですか?と聞くと塚田さんは「こりこりとして教えてくれました。」

「担当している仕事や現場ごとにチームになっているのであまり会うことのない先輩もいるのですが、先輩たちはとっても優しいし未経験の僕にも丁寧に教えてくれます。怖いことは全然ないですね」

地元の森で働く魅力

入社してからはまだ一部の作業しか経験していないという塚田さんですが、今の塚田さんが見た林業の魅力はどんなところなのでしょう。

「何よりもやっぱり、自然の中で体を動かして仕事ができることです。雨竜町の会社ですが他にも北空知にいくつか現場があって、僕の育った地元の森の中で仕事ができるのは気持ちが良いですね」

天気によっては作業が大変なこともあるそうですが、自然を相手にする仕事だからこそやりがいを感じ、面白さのあるお仕事なのですね。

休日の過ごし方 これからにむけて

「日曜日が休みなので休みの日には買い物に行ったりもしますし、趣味のバドミントンも仕事が終わってから週に2回ほど行っています。急な仕事がありませんので、決まった時間にきちんと始まって終わることができます」



同じタイミングで入社した林業女子の長井さん(左)と「初めての後輩なんです!」と嬉しそうなお井さん(右)

有限会社スリースターズ興業

住 所：北海道雨竜郡雨竜町字尾白利加92番地16
TEL：0125-77-2052

塚田さんは林業を始めて、仕事もプライベートも充実して過ごすことができているようです。そんな塚田さんにこれらの目標を聞きました。

「今はまだ先輩に付いてもらって作業をしているので、まずは一人前になることです。しっかり安全に道具や機械を使えるようになって、仕事ができるようになって、会社から必要とされる人になれるように頑張りたいです!」

伐った木の行き先



切り出された丸太は木材運搬業者などによって製材工場へ運ばれます。

製材に 適した部分は...

それ以外の部分は...

主に住宅用建材（家の柱や壁、たるき垂木、どうぶち胴縁など）になったり、梱包材（工作機械などを輸送する際に梱包する木材）や家具などに利用されます。



製材に適さない部分や製材で余った木材は、主にチップに加工され、紙やティシューペーパー・トイレットペーパーなどになります。また、上記のほか、枝や樹皮などとともにバイオマス燃料などにも活用され、再生可能エネルギーとして熱や電気へと生まれ変わります。他にも、樹皮や製材の際にできるおが粉は、牛の敷料として使われるなど、様々な場面で利用されています。



こうして伐った木は余すところなく利用されて、私たちの身近なところで使われています。

3

若者が林業の面白み・達成感を感じるための仕事の工夫を。



1980年に恵庭市で創業したエニワ林工（株）。2016年には高校を卒業したばかりの新卒を2名採用するなどやる気ある若者を育てている会社です。従業員数は役員を含めて14名。「世の中に合わせて会社も変わっていかないと」と語るのは38歳という若さにして取締役に抜擢されている枝廣崇夫さん。若き世代を育てる立場の方が語る林業の世界のお話を聞きました。

社会人の基本から林業人へ

枝廣さんは東京生まれの東京育ち。前職は大手機械メーカーの開発に携わっていましたが、山好き・スノーボードへの熱が高じて20代前半で北海道へ。そこで林業に出会い、その面白さの虜になりました。役員になった今も時間の許す限り林業の現場に出ているのだとか。

「新卒や若い子が入ってきたときにまず始めに教えることは『社会人としての基本』です。例えば会社に遅れるときは一本連絡をする、とか本場に社会人として会社員としての当たり前を教えますね。現場での技術はあとからやる気があれば付いてきますから。この基本がきちんとしていないとど